



# 二十歳の気持ち

はたちのつどいが1月12日、釜石市民ホールTETTOで開かれ、対象者250人中201人が出席しました。はたちを迎えた参加者は、色とりどりの振袖や袴、真新しいスーツに身を包み、立派に成長したわが子の晴れ姿に目を細める保護者も多く見られました。

式典では、代表の洞口優人さんが「この20年の中で特に記憶に残っていることは、東日本大震災です。大変な状況の中でも、支え合い励まし合いながら少しずつ前に進み、その経験が、今の私の強さの基盤になっています。『すべては自分次第、努力すれば必ず道は開ける』という信念を胸に、困難や壁にぶつかったとしても、自分たちの力で乗り越え、明るい未来を切り開き、今後は社会に貢献できるように精一杯努力していきます」と力強く二十歳の抱負を述べました。

この他、中学・高校時代の恩師からのビデオメッセージ、郷土芸能披露などで会場は和やかな雰囲気になりました。これから、それぞれの道を選んで歩んでいく皆さんは、夢や目標、大人としての自覚や責任をしっかりと胸に刻み、新たな一歩を踏み出しました。



佐々木悠さん（釜石中）

大学での学びを生かし  
地域に貢献できる大人に

私が感謝を伝えたい人は両親です。私の希望で学区外の小学校と中学校に通わせてもらっていたので、毎日遠い学校へ送迎してくれて、中学生の時に人間関係で悩んだ時や大学受験の時など、いつもそばで支えてくれました。将来やりたいことはまだ具体的に決まっていますが、大学で水産関係の勉強をしているので、学んだことを生かして、県内に就職し地域に貢献したいと考えています。そのために、さまざまな経験を通じて、多様な知識や価値観に触れながら自分を磨き、人に迷惑をかけない大人になりたいです。



川崎秦さん（甲子中）

両親への感謝と恩返し  
恩師の教えが自分の礎に

私が感謝を伝えたい人は両親と野球部の顧問です。小学1年生から野球を始めましたが、震災で家や野球道具が流され、当時はゼロからのスタートでした。それでも不自由なくやりたいことを自由にやらせてくれた両親には感謝しています。恩師である中学の野球部の顧問に、人として自立するために必要なことを一から教えてもらい、人見知りや消極的だった自分が、今では積極的に行動できるようになりました。はたちのつどいでは立候補して司会を務めました。これからも感謝の気持ちを忘れず、釜石に貢献できる大人になりたいです。

〜ありがとうの

想いをカタチに〜



鈴木聖真さん（大平中）

多くの学びと出会いの場  
音楽を軸につながりを

私が感謝を伝えたい人は両親です。ここまで成長するためにたくさん負担をかけたと思います。吹奏楽や虎舞でイベントに出ることが多かったのですが、両親はやりたいことを自由にやらせてくれました。小学4年生の時に金管バンドを始めて、今では釜石市民吹奏楽団でパーカッションを担当しています。他の職種の人とつながり、技術面や人間性の部分でも学びがあるので、その学びが職場の人との接し方やコミュニケーションに生きていると思います。9月に他市町村の若者も募り、釜石で演奏会を企画していて、音楽を軸に幅広い人と関わりたいと思っています。



阿部紅愛さん（釜石中）

より一層の成長を目指し  
明るく楽しい人生を

私が感謝を伝えたい人は両親です。今はアシスタントとして盛岡で働きながら、美容師の資格を取るために勉強していて、両親には学費の面で支えてもらっているので感謝しています。最初は、年代が違う人とのコミュニケーションや敬語に苦戦しましたが、美容師の仕事は感謝されることが多いのでやりがいを感じています。来年の9月に美容師資格の試験があるので、髪を綺麗にすることはもちろん、お客さんに楽しい時間を提供できるような美容師になりたいです。また、後悔しないようにやりたいことに挑戦して、明るく楽しい人生を歩んでいきたいです。





喜び感謝、夢を胸に——  
笑顔が溢れる門出の日  
～ Photo Report ～



◀ 当日の写真は  
こちらからも

